

【はじめの 100 か月の育ちビジョン アンケート集計結果 個別回答】

※頂いた回答は、内容を修正することなくそのまま掲載いたしますので、何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

設問 8 で「ある」と回答した皆様にお伺いします。取り組み内容や、工夫している点があれば具体的にご記入ください。(自由記述)

(例:保育の現場、母親学級、公民館や図書館などの地域の施設で実施されている、子どもの育ちを支えるために行っている取り組み等について)

28 件の回答

- ・幼児期と学童期以降の接続の促進
- ・「乳幼児期親力アップ講座」として乳幼児期の子を持つ保護者を対象に年6回行っている。また、「学童期親力アップ講座」として就学時健診の場を活用した講座を行っている。
- ・ビジョン4「保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする」に係る取組として、保護者の相談対応を通して子どもの健全な成長を図ることを目的とした訪問型家庭教育支援を推進している。
- ・市町村家庭教育支援担当者が集まる研修等で、「保幼小架け橋カリキュラム」についての説明・周知を行っている。
- ・5歳児検診を予定している。また、切れ目ない支援のため、巡回相談等も実施していく。
- ・市町村幼児教育担当者や幼児教育施設や小学校の接続担当者に向けて、「保幼小架け橋カリキュラム」についての研修を行っている。
- ・自治体こども計画を策定し、取組みの方向性に「こどもの居場所や価値ある体験の提供」や未就学児へのサービスの充実」を掲げ、対象となる年齢のこどもへの取組を進めている。
- ・切れ目のない支援として、妊娠期から 18 歳までの児童のいる家庭が利用可能な市の子育て支援サービスが分かるリーフレットを作成し、妊娠届出をはじめ各種相談等を通じ案内している。
- ・乳幼児家庭教育学級にて実施。継続的に実施することで、保護者間で周知されている。また、切れ目のない支援を目的に保育所や幼稚園での家庭教育学級や、働く保護者を対象として企業における家庭教育学級も行っている。
- ・【子育て支援課】相談体制の拡充、地域子育て支援拠点の拡充【健康増進課】母親学級、両親学級、育児相談、子育てサロンの実施
- ・健康推進課で実施している5歳児検診への協力、保幼小連携の推進(架け橋プログラムの作成に向けた研修会など)
- ・母子保健推進員協議会を設置し、担当地区の妊婦訪問や赤ちゃん訪問を依頼している。
- ・家庭教育支援講座を実施している。

- ・架け橋カリキュラム開発会議における共有。
- ・町が行っている事業の中にビジョンの内容に沿った事業があります。
- ・NPO 団体が実施する子育て支援の講座に対して支援を予定している。
- ・子育て世帯訪問支援事業(ホームスタート)
- ・関係課と連携を図りながら、各種健診や子育て相談の情報共有、保育施設と担当課での相互情報交換などを密に行っている。
- ・①伴走型相談支援の一環として、出生後の集団面談を子育て支援施設(子育て支援センター、児童館・児童センター)で実施。②今年度、「Watch Me Play！」という乳幼児の遊びを使った心理的支援に関する講演会を支援者向け・市民向けに実施。
- ・訪問型家庭教育支援事業や家庭教育学級、学童期子育て講座、5歳児検診などにおいて、保護者のつながりづくりを行い、保護者への支援を通して(保護者を元気にすることで)子どもの育ちを支えていく。また、放課後子供教室やふれあい事業などを通して、こどもの権利と尊厳を守ることを意識した指導者養成や子どもの育ちを支える地域づくりを推進する。
- ・安心して出産、育児ができるよう、妊娠届出、妊娠中、出産後の赤ちゃん訪問をはじめ、乳幼児健診や育児相談など、切れ目なく必要な支援につなぐための伴走型支援
- ・あらゆる事業があてはまりそうで書ききれません。
- ・乳幼児親力アップ講座、企業における家庭教育学級
- ・母子手帳交付時に境町の子育て支援の一覧表を配布・説明し、切れ目ない支援を行っている。子育て支援拠点等で保育支援を行っている。
- ・妊娠期から子育て期まで切れ目なく育ちを支えるために、すべての妊婦と面談を行う妊娠届出時に、リスクアセスメントシートを活用し状況の把握を丁寧に行い、必要な支援に確実につなげる体制づくりに努めている。
- ・保護者に対する子育ての相談(訪問型家庭教育支援事業)
- ・妊娠期や未就学児を育てる子育て世帯の保護者、養育者の支援として、ファミリーサポートセンター事業やホームスタート事業を実施している。
- ・パパママクラスや1歳児相談(1歳おめでとう)の場で、はじめの100か月とその大切さを伝えている。児童虐待防止の推進、親子関係形成支援のためのペアトレや講座、誕生前からの伴走型支援など

ビジョン⑤について、「はじめの100か月の育ちビジョン」地域コーディネーターの養成や、乳幼児触れ合い体験の推進、「はじめの100か月の育ちビジョン」の普及啓発・広報等、何か取り組んでいることがあればお書きください。(自由記述)

16 件の回答

- ・架け橋カリキュラムを保護者・教員に配布、各園・学校に保幼小接続コーディネーターの設置

- ・保幼小中連携に係る授業体験
- ・家庭教育関係研修情報の提供
- ・市町村幼児教育アドバイザー対象の研修、架け橋カリキュラム作成の推進、市町村主催の協議会や合同研修会等への講師派遣・相談対応、幼児教育関係研修情報の提供
- ・令和5年のビジョン決定以前から、中学生と、保護者と赤ちゃんが交流し、中学生が赤ちゃんの抱っこやオムツ交換等を行う、「中学生のわくわく赤ちゃんふれあい体験」を実施している。
- ・「こどもまんなか社会」の実現を目指す茨城県こども計画や、こども施策全般に関する出前講座及びライフプランセミナー（赤ちゃんふれあい体験事業）
- ・問8で回答した事業に携わる提供会員やボランティアの養成講座を広報紙当等を活用し積極的に広報している。

設問10で、多少でも連携があるとお答えの皆さま、「こどもの育ちを支える環境や社会の厚み」に関連して、市民団体や企業と連携できることがあるとすれば、どのようなことがありますか？また、連携の実施例や課題があればご記入ください。（自由記述）

22件の回答

- ・特に就学時向けて連携を密に図っている。
- ・企業と連携した家庭教育支援(受け入れ企業の意識改善が課題)
- ・現在、幼児教育施設、発達支援センター、子ども課と連携して研修や情報交換、説明会等を実施しているが、市民団体や企業と連携した際は、子育てに関するセミナー等は、想定できる。
- ・企業における家庭教育学級
- ・教育委員会が主体となり、民間保育所と小学校間で円滑な接続のための情報交換を実施している。
- ・10月よりパルシステム茨城 栃木と連携して、出産祝いとして「おめでとうばこ」を配布する取り組みを予定している。
- ・企業においても働く社員に対しての研修の一環として、子育てに関する情報の提供が充実してきている。例えば、企業内における家庭教育学級の実施は、働きながら子育てをする人にとっては、わざわざ休日にイベントへ足を運ぶことなく受講できるメリットがある。
- ・【子育て支援課】こどもの居場所づくりを拡充させるため、地域子育て支援センターなどの役割や必要性について周知していく【健康増進課】まずは地域の企業がこのビジョンを知り、支える側として認識してもらうことが必要だと思います
- ・市民団体や企業との連携はありません。他市町村の好事例があれば知りたいです。
- ・それぞれの団体や企業がどのようなことをしているのか分からず、本当に連携していくってよの判断が難しい。

- ・市民団体や企業における家庭教育の研修会 ・実施例はなし
- ・活動にかかる運営費の補助、イベント等の後援
- ・家庭教育学級を企業と連携して実施するため、企業に説明会等を実施している。働く家庭を支援するための託児サービスの拡充が課題である。
- ・県の施策の広報、PRなど
- ・実際の支援の担い手として、市民団体や企業の力を借りたい。
- ・企業における家庭教育の実施
- ・父母ともに育児休業の取得を推進するなど、労働環境の整備について
- ・市内関係機関で構成するネットワーク会議や業務受託事業者との定例会議等で、事例の共有や意見交換を行っている。